



▲ウェディング・セレモニーで祝福を受ける二人



◀水銀灯に照らされた「千田祭」の掲示板

まず、広島大救地問題の経緯や広島市の跡地利用構想案、中国財務局の「跡地有効活用研究会」の答申の概要、広島商工会議所「高度空間利用委員会」報告書の概要などをたたき台に、参加者一同白熱した討論を展開し、学生、住民、一般市民による跡地利用案を行政側にも知ってほしいという初期の目的は達成された。

三十日(日)は、約百二十店舗が出店してフリーマーケット(リサイクルバザー)が開催され、留学生らが各国特産料理を用意したビアガーデンやスポーツキックベース大会なども開催された。

#事務職員永年勤続者を表彰

平成六年度文部省永年勤続者表彰に係る文部大臣表彰状の伝達式及び広島大学事務職員の永年勤続者表彰式が、十一月二十二日(火)に開かれ、次の二十六名に、学長から表彰状及び記念品が授与された。

大臣表彰 勤続二十年、大臣発令十年以上
学長表彰 勤続二十年、本学勤務十年以上

(被授与者名)

- 大臣表彰
 - (庶務部) 松田恵治
 - 川崎幸一
- ◎学長表彰
 - (庶務部) 中島伸夫
 - (経理部) 森原良治
 - 穂丸壽美
 - 妹尾 繁
 - (施設部) 上南博史
 - 前田裕之
 - (学生部) 道管 浩
 - (教育学部) 伊藤茂美
 - (医学部附属病院) 谷廣ミサエ
 - 高本宣子
- 秋山恵美子
- 高橋光枝
- 竹光三枝子
- 面丸由美子
- (歯学部附属病院) 山本信博
- 田村裕子
- (工学部) 大谷浩一
- 河内貞由美
- (生物生産学部) 東脇隆文
- (原爆放射能医学研究所) 沖村重則
- 大谷和枝
- 木野村愛子
- (附属図書館) 諸富秀人
- (附属学校部) 保田良子

#医学部附属病院の田村さんと歯学部附属病院の山本さん、業務功労者で文部大臣表彰

医学部附属病院看護部の田村征子(たむら・せいこ)さんと歯学部附属病院看護部の山本信博(やまもと・のぶひろ)さんが、平成六年度の医学教育等関係業務功労者賞を受賞し、表彰式が去る十一月二十一日(月)に行われた。

田村さんは昭和三十七年から三十二年間にわたり、また、山本さんは昭和四十九年から二十二年間にわたり看護助手業務に精励された。

#理学部の吉里教授ら学会賞等を受賞

理学部の吉里勝利(よしさと・かつとし)教授が十月六日に「日本動物学会賞」を、十一月四日に「日本バイオマテリアル学会賞」を受賞し、同じく、熊丸尚宏(くままる・たかひろ)教授が十月十四日に「日本分析化学学会賞」を受賞した。

また、工学部でも、山中昭司(やまなか・しよ

うじ)教授が九月二十九日に「日本粘土学会賞」を受賞し、同じく、西田恵哉(にしだ・けいや)助教と廣安博之(ひろやす・ひろゆき)教授が十月十九日に「一九九三年米国自動車技術会ホーニング記念賞」を受賞した。

一方、佐々木和夫(ささき・かずお)名誉教授が、電気化学、電子材料に卓越した貢献をしたことにより、十一月二日に財団法人加藤科学振興会から加藤記念賞を受賞した。

#企業を伸ばす大学、ダメにする大学とて、広大は?

ついでに経済記事で定評のある週刊「ダイヤモンド」誌の十一月十九日号に、特集「企業を伸ばす大学、ダメにする大学」が掲載された。折から、昨年度よりもさらに厳しい就職内定率と報道された就職予定の皆さんは、先輩の活躍をどのように見ているであろうか?

同誌によると、毎年十一月に発売されている「ダイヤモンド会社職員録・全上場会社版」のデータを基に、「伸びた企業」を「過去三年の経常利益額の平均値が、十年前のそれより一〇〇%以上伸びている会社と、赤字から黒字に転換した会社、計五五二社(金融を除く)」と位置づけ、「ダメになった企業」を「経常利益が十年前より悪くなった会社と、黒字から赤字に転換した会社、十年前も今も赤字の会社、計六〇五社(同じく金融を除く)」と位置づけ、「起業に成功した企業」を「過去五年間に株式を上場または店頭公開させた会社五七三社」と位置づけ、「管理職と役員の出身大学をカウント」した。

これによると、「全上場企業の大学ランキング」では、百校中広大は一二三四名で第29位、全体の七・九六%となっている。

一方、「企業を伸ばした大学ランキング」では29位であり、「企業をダメにした大学ランキング」では36位となっているが、どちらのランキングでも過去五年間の伸び率は「(マイナス)となっている。当然、「OBの数伸びている大学ランキング」では85位となっており、五年間の伸び率は七・九六%となっている。ちなみに、「OBの数伸びている大学」上位三校は、東海大学、

東洋大学、駒沢大学となっており、三校とも一〇〇%以上の伸び率となっている。

最後に、「株式を上場・公開させた企業のランキング」は、本当の意味で企業を伸ばした大学ランキングと言ってもいいはずの大学ランキングで、広大は34位で、相対比率は七五・一〇%となっている。ちなみに、相対比率とは「母数(九六三一人)に対する各大学のシェアを全上場企業におけるシェアと比較したもの」であり、「この数値が一〇〇%を超えて大きいほど、このグループへの偏りが大きい。つまり、公開企業への貢献度が高いことになる」のである。

つまり、有名大学は「揃って一〇〇%以下、つまり上場企業ほど人材を送りこめていない」のであり、「一流大学出身者が多い大企業のビジネスマンがリストラできゅうきゅうとしているのを尻目に、中堅の大学OBが企業家精神を発揮して創業者利益を得ているとすれば、なにより痛快ではないか」と結んでいる。

さて、皆さんの選択は?
「まだかな月よ、おれの苦惱を照らすのももう今夜が最後であればよい」
(ゲーテ、ファウストより)

皆さんの健闘を期待します。

#文学部の東田さん、国体に出場

愛知県で十月二十九日から開催された第四十九回国民体育大会「わかしやち国体」のソフトボール競技に、文学部庶務係の東田操(ひがしだ・みさお)さんが、広島県の成年男子二部(四十歳以上)の監督兼選手として出場した。

広島県チームは、決勝戦で静岡県に「対奪で惜敗したが、東田さんは、監督・捕手としてチームの要となって活躍した。

東田さんは、国体に出場した印象として、「この歳で国体に出場できるなんて夢のようでした。あの開会式での「感動」、地元の方々の心温まるもてなしへの「感謝」、そして、惜しくも破れはしたものの全力を出し切り、かつ、試合を存分に楽しみながらの国体準優勝の「感激」は、一生の宝物となりました」と語っていた。